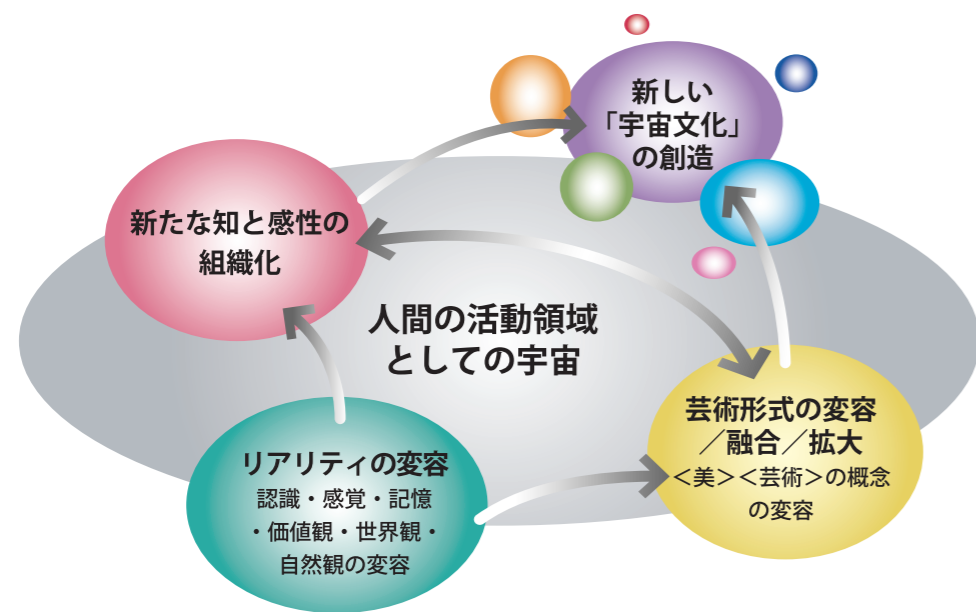


MUSE 計画

人類がはじめて宇宙を持つ恒久的な活動拠点である国際宇宙ステーション (ISS) は、自然科学・工学分野のさらなる研究開発を促すだけでなく、科学技術と芸術、そして人文諸科学の「総合」を通じて、地球の生命と文明に対する新たな視点や、宇宙時代における人類の新たな自然観・生命観を形成していく契機になると思われます。私たち**宇宙への芸術的アプローチ (AAS = Artistic Approaches to Space)** 研究グループは、それを促進する一つの方法として、**MUSE 計画**を実践しています。MUSE (ミューズ) は、ギリシャ神話でいう学芸の女神で、沈思・黙想という意味も持っています。**MUSE 計画**は、NASDA および宇宙飛行士の方々と連携して、宇宙における芸術表現の意義と可能性、条件と方法を研究し、ISS の日本の実験モジュール「きぼう」を核とした宇宙環境における芸術プロジェクトの実現をめざして、具体的な提案と創作実践を行う共同研究プロジェクトです。微小重力や閉鎖環境、地球や宇宙に開かれた新たな視野という宇宙環境の特性は、私たちの感覚や知覚、認識や価値観を変え、リアリティを変容させ、人間の生活様式や行動の変化を導くでしょう。それに対応して、人間の芸術表現やコミュニケーションの意義を原点に立ちかえって検討し、知性と感性の新たな結びつきの中から、宇宙で活動する人々にとってだけでなく、地上に生きるわれわれにとっても意義ある宇宙文化の創造を探ることが求められます。これが **MUSE 計画**のコンセプトです。

MUSE 計画は、互いに関連しあう以下の三つのプロジェクトからなっています。



I KOKORO Project (微小重力環境における芸術実験)

「心」は宇宙と人間の接点であり、芸術の本質とつながっています。**KOKORO Project** は宇宙環境において人間の感性の純粋な姿を引きだし、日本文化から人類へのグローバルなメッセージの発信をめざすものです。その目的は次の点にあります。

- 1 宇宙環境における心的感性的なコミュニケーションのあり方を探ること
- 2 微小重力環境固有の感性的表現の可能性を探ること
- 3 微小重力環境を感覚的に提示することで宇宙についての人々の直感的理解を促進すること

II COSMOS Project (基礎研究とデータベース構築)

コスモスとは文字通り「宇宙」という意味で、**MUSE 計画**のさまざまな芸術プロジェクトに活用される基盤研究です。これは主に以下の領域からなっています。

- 1 宇宙飛行士とのインタビューや NASDA および NASA の宇宙関連施設での体験的調査を通じて、宇宙環境の特殊な物理的・精神的条件を探る。宇宙飛行士の意見は重要なヒントとしてテキストにまとめつつあり、将来公開する予定です。
- 2 NASDA に蓄積されている宇宙情報ソース (映像・言語・物質) を芸術的観点から調査・分析し、独自のデータベースを作るとともに、それらを活かした作品化の可能性を探る。
- 3 宇宙での科学実験や生活の中で用いられる道具や機器類を芸術的観点から調査する。
- 4 地上の文明と芸術における宇宙像の意味とその変遷を新たな角度から研究する。

III W-HERE Project (宇宙-地球の関係における芸術的コミュニケーションの実験とMUSE計画の社会化)

国際宇宙ステーションと地上という二つの「ここ (here)」が交わるなかで、広大な宇宙における人間の位置を問いかけること—「私たちはどこ (where) にいるのか」—をテーマに、宇宙と地上をつなぐ双方向的な芸術実験プログラムを検討します。これは、**MUSE 計画**の社会的公開のあり方を研究・実践することにも結びついています。

主な手段としては下記の項目が考えられます。

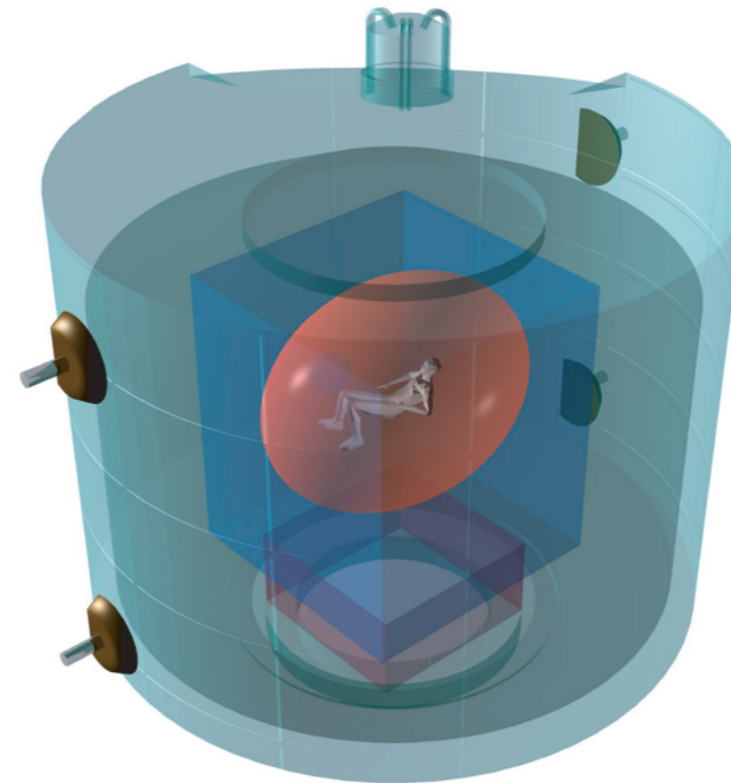
- 1 インターネットや放送システムによるもの (宇宙から地上へ/地上から宇宙へ)
- 2 展覧会・レクチャー・ワークショップによるもの (成果物の公開/さらなる研究開発のために)
- 3 出版によるもの (Book/CD/DVD/WEB etc.)

MUSE 計画では以下のような具体的な提案と研究を進めています。

I KOKORO Project

1 「心の場」—「きぼう」保管室における芸術実験の構想

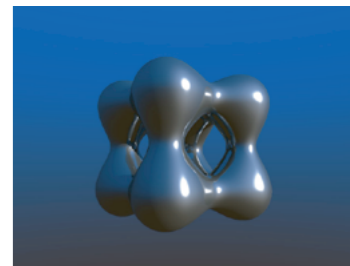
JEM (きぼう) 保管室内に設置する「心の場」。無限・ユニヴァースを象徴・形象化した楕円体 (カプセル状) の内部空間は人の感性・心を探るための場である。宇宙環境での実践の場は、人間を宇宙の総体としてとらえ、純粋に自分自身に立ち帰り、自己を見つめ直し、自己 (人間) そのものの存在を確かめる最適の場になるはずだ。



1: 「宇宙を持ち帰る」カプセル



2: 宇宙で干菓子を楽しむ



3: 液状物質による造形

2 芸術実験シナリオおよび装置の研究開発

ISS の船内・船外を利用した造形や芸術実験のための予備実験として、シャトルの船内・船外の環境を利用した各種の実験を日本人宇宙飛行士に提案しています。

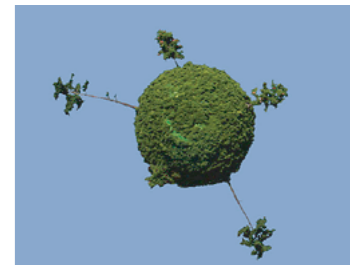
II COSMOS Project

1 パラボリックフライトを利用した予備実験

方向感覚の参照軸決定を試す実験、液体や物体の振る舞いを調べる実験など、パラボリックフライトなどを利用した予備実験で得たデータを、他のプロジェクトの諸提案へと発展させます。

2 映像データの調査・分析・開拓

NASDA に蓄積されている宇宙での活動に関わる画像データを調査し、芸術的観点から興味深いと思われるものを分類・整理して独自のデータベースを作るとともに、作品化の可能性を探ります。



4: Mind Garden

III W-HERE Project

宇宙から地球を見る視点をより多くの人のものとするため、シャトルからの放送などの機会を利用して実現可能な宇宙と地上との交流のための提案を行っています。



5: パラボリックフライトによる空間知覚の検証

1: 「宇宙を持ち帰る」カプセル 船外の真空を密閉容器に閉じこめ地上に持ち帰って、宇宙そのものを体感することができる芸術作品の試作。

2: 宇宙で干菓子を楽しむ 日本文化からのメッセージを発信するための、和菓子を用いたコミュニケーションの場の創作を提案している。

3: 液状物質による造形 微小重力環境下での液状物質による造形の可能性を探るための実験プログラムの開発。

4: Mind Garden 宇宙空間で育成された植物でつくられる「庭」。人類にとっての文化的営為の意味を新しい環境でおこなうことで探る。

5: パラボリックフライトによる空間知覚の検証 微小重力下で上下の空間知覚の参照軸がなくなっても、身体を託せるものがあれば、それとの「接触場」を起点に新たな参照軸が形成され、空間知覚を安定させることが可能になる。



6: 宇宙の始まり (Space Toy)

6: 宇宙の始まり (Space Toy) 微小重力環境における動きを中心とした造形表現。宇宙飛行士同志のコミュニケーションツール。(パラボリックフライトにおける予備実験)